

明るい共和村の皆様

皆様……共和支部の皆様

私は山口県十二ヶ所、十二日間の転戦を終えて、五月一日午後二時本部に帰りました。たくさんお手紙を一通り読んでペンをとりました。私の原稿の時間です。私はすぐ皆様を思いました。

雨の中を秋芳に進出した、若人一隊の総攻撃、そして、涙をのんでお別れしたその夜の自動車の音、私たちはこの前、熊毛、都濃<sup>つゆの</sup>二郡を終えて、二十三日午後四時幾分、厚狭<sup>あさ</sup>で美祢<sup>みね</sup>線の人になった時、私たちは刀禰<sup>とね</sup>哲夫法将軍夫妻のお出迎えを受けて、久米の正覚寺さんとで一行五人になりました。伊佐まで来ると、於幅の安養寺の奥様のお迎えで六人になりました。於福につくと長念寺には多数のお出迎えで、支部発会の大会のため入りましてから八日間を、美弥の天地で活躍しました。八日間われらと行動をとみにせられた刀弥法将軍とは五月一日今朝小郡駅でお別れしました。

共和四千五百人の皆様、われらの共和村は、全国を通じての明るい村の一つであります。

私が皆様にお会いしたのは昨年十一月でした。香川、東京、大阪、鳥取、それから山口県、十一月も末つ方、私は小学校のあのりつばな大講堂において、村教育会の主催で「大乘菩薩道より見たる教育勅語の真精神」と題して二日間立ちました。私ははじめ、村長様に会い、校長先生に会い、そして村の四天王に会いました。初めて会った村の長老たちが、みな求道の人であり、念仏の方であることを拝見し、講堂における村民全体の訓練づけなどを拝見した時、「明るい村共和」を感じました。一日妙覚寺で婦人会の方に語り、最後の日に刀弥さんのお宅で二回お話ししました。

皆様、皆様の村ではすべて上に立つ方々が、自ら進んで求道なさいます。阿武義一先生も刀弥嶺雪翁も、中村翁も、かつては満鉄病院長たりし阿武金槌先生も、江原先生も局長さんも、校長先生も中本村長さんも、私たちの大会の時にはお顔が見えまです。刀弥哲夫先生は在郷軍人分会長として、組合長として重責があるのにかかわらず、奮然として、腰にさげられたサーベルの代りに、六字の宝剣をとって立ちました。かくして本年二月八日「驚天動地」の刀弥氏のモットーのままに美弥八日間の滞在は、皆様をしてついこの大運動網に参加せしめたのであります。

皆様、支部が生まれた日の式場の一隅に悲哀か歓喜か、人知れずお泣きになっていた方を知っていますか。生まれ出る者の親、何かおこるためには、きつとその裏には不眠不休の大努力を払って下さる方があるのです。誰でしょう。それは刀弥氏の奥様、刀弥むつみ法師であります。ご主人の多忙を助けて、一人で、本部との交渉、団員の募集に走った方です。

皆様、共和に燃えた火は、さらに於幅に、そして別府につきましました。四月二十四日、二十六日両支部とも発会式を挙げました。於幅支部は、校長先生や、都通先生、そし

て婦人会の方々によつて生まれ出でたのでした。別府支部は、共和村の人、田辺実雄先生の献身的な努力、そうです、先生一人のみ胸に生まれた「金剛の信」と理想とは、ついに竹本前村長、万代唯輔氏らを立たせて支部が生まれたのです。ここにまた、その裏に活躍した女性がありました。言うまでもなく田辺先生の奥様、田辺つち子法姉です。私どもは一体同心となつて、ご主人と共に活動なさつた奥様の黙々の努力に涙せずにはいられませんでした。

皆様……特に若い皆様、「私ども一人ひとりがみな共和村を代表するのです。一人ひとりがわが明るき共和の誇りを傷つけないように行動いたしましょう。」あの妙覚寺での春季大会の終ります時、皆様の眼は輝いていました。誰にだつて、どこにだつて、傷のない、欠点のない者はありません。共和村だつていくらも悪いところを持つていてしょう。しかし、悪いだらけ、傷だらけの村が多い中に、われらの共和は誇つてもいい、いい村なのです。

特にわれらの共和は、精神文化のために一致団結します。懸命です。私たちはもつともつと進みましょう。そして天下にまれなよい村にしましょう。されば！ 共和村のこの誇りを傷つけるなかれ。そして挙村一致進達の一路を奮進せよ。

力だ！

あなたはその背負わされた苦しみに堪えられないと言うのか、無理もない。

だが、あなたはまだ若い。逃げず怖れず、その全体を背負つて立つて見よ。力だ！

信力だ！

われに七難八苦を与えたまえと祈つた人さえある。

働かなくても、苦しまなくてもすむお坊ちゃんに生まれたかつたのか。それとも人生の意義がほしいのか。

今まで私の言つたことを真に受けて立ち上がれ。十年二十年の後には金では買われないものが残る。

力だ！ 泣くな！

型

きわめて天真爛漫な一面を持つことはいいことである。しかし笑顔さえ見せてはならないような場合に、駄じゃれを言つたり、滑稽や与太を飛ばすのはいけないことである。禅門ではその修行の聖座に座禅した時、歯を見せてさえ叱責されるといふ。

形式が何になるかというものの考え方がある。しかし一切の形式を棄ててしまつたところに、美しい人間生活があり得ようか。型において型を超え、儀式において儀式を超え、形式を重んじて形式を超えたところに、美しい人間生活があるのではあるまいか。

さらに極言すれば、形は心の現われである。心が添っていないで形式だけ美しくしている偽善的な生活を嫌うのはいい。けれどもそれはけつして形式がなくてもいいということではない。われらは、とつてはならぬ形式で動く。形が崩れている時きつと墮落しているのだ。意業が外へと発展した時、口業や身業となる。身業とは動く形

式である。心の崩れた野卑な生活形式をとる。何を常に言っているか。何をしているか。われらは誤つたる赤裸々の尊重から、幾度も、とってはならぬ形式かたちにおいて動く。

われらはまずわれらの動いている形式において反省しなくてはならない。

#### 殺人剣

どんな悪い人にも悪いところがある。どんな悪い人にでも生かしてかかれば善いところがある。その個性の全体を生かしきるのは、善悪を越えたる世界からの光であり、愛である。われらは愛のたらないことは言わないで、それ以前に善悪で裁いて人を殺す。幾度も人を殺す。裁きは殺人剣である。

#### 人の弱点

責められ、叱られ、縛られた時には働き、許され、托せられ、信じられた時には怠ける。これ人情の弱点である。

三尺の童子すら托し得る人物

事業の一切をゆだね得る人物

村を国家をまかせ得る人物

人物はなきか。

人物はなきか。